

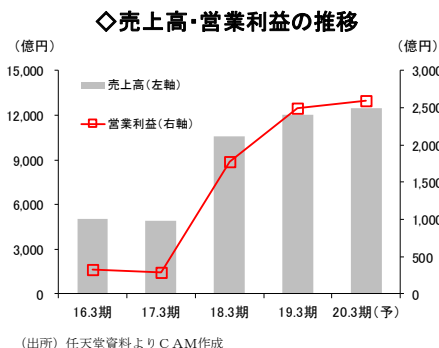
# 企業ニュース 任天堂

(東証1部 : 7974) <https://www.nintendo.co.jp>

作成者:村上大志

## 自社の有力IPを様々な分野で展開

1889年、創業。花札やトランプ、玩具の製造を経て、1977年から家庭用ゲーム機の販売を開始した。「ファミコン」や「ゲームボーイ」、「Wii」、「ニンテンドーDS」、などヒット商品を多数有する。「マリオ」や「ポケットモンスター」など自社IP（知的財産）に触れる人口の拡大を基本戦略とし、自社IPの価値最大化に向けた取り組みを推進。スマートデバイスの活用やテーマパーク、映像コンテンツ、キャラクターの商品化などIP展開のビジネスに注力する。発売から3年目となる「Nintendo Switch（以下NS）」の2019年6月末の累計販売台数は3,687万台、ソフトは2億1,013万本。



## NSビジネスの拡大が続く

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は、売上高が1,721億円、前年同期比2%増、営業利益が274億円、同10%減。NSの販売台数は213万台、同13%増、ソフトの販売本数は2,262万本、同26%増。6月発売の「スーパーマリオメーカー 2」が242万本の販売で業績をけん引。デジタル売上高は306億円、同65%増。NSのパッケージ併売ダウンロードソフトやダウンロード専用ソフト等が伸長した。一方、「ニンテンドー 3DS」のハード、ソフトの減少や自社ソフト売上高比率が74.1%と同8.8ポイント低下したことなどが減益要因となった。

20.3期の会社計画は、売上高が1兆2,500億円、前期比4%増、営業利益が2,600億円、同4%増。NSのハード・ソフトともに前期を上回るペースで販売拡大が続いている。足元では、8月29日に配信が開始されたスマホアプリ「ポケモンマスターズ」がヒットしている。NS向けソフトで11月発売予定の「ポケットモンスター ソード・シールド」の販売に追い風となろう。今後のカタリストは9月20日発売予定の「Nintendo Switch Lite<sup>※</sup>」と、同月25日に配信予定のスマホアプリ「マリオカート ツアー」が挙げられ、業績への貢献が期待される。

※Nintendo Switch Lite：持ち運びやすさを重視した携帯専用のNS

## [株価動向・投資判断]

円高による業績へのマイナス影響には注意が必要だが、NSビジネスの拡大が続いていることに加え、デジタル売上の増加で持続的な成長が期待できよう。

<7974 任天堂 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	1,055,682 ( 116)	177,557 ( 505)	199,356 ( 296)	139,590 ( 36)	1,162.3	590.00
19.3	1,200,560 ( 14)	249,701 ( 41)	277,355 ( 39)	194,009 ( 39)	1,615.5	810.00
20.3 予	1,250,000 ( 4)	260,000 ( 4)	260,000 ( ▲6)	180,000 ( ▲7)	1,511.0	760.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2019/9/9)	41,890 円
年初来高値 (高値日)	42,100 円 (19/9/9)
同 安値 (安値日)	27,420 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	27.7 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	11,283.8 円
P B R	3.71 倍
予想配当利回り	1.81 %
(1株当たり配当金年760.00円)	
R O E (19.3)	14.2 %
発行済み株式数	13,167 万株